

**東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会  
ラグビーワールドカップ2019  
文化アクションプラン【2017年版】**

---

平成29年4月

2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019  
埼玉県推進委員会

# 目 次

---

1. 策定の趣旨	1
2. 本県における現状と課題	3
3. 創出すべきレガシー	5
4. 取組の方向性	6
5. 具体的な取組	7
6. 取組の評価と見直し	11
（参考1）東京2020 参画プログラム	12
（参考2）beyond2020 プログラム	13

## 1. 策定の趣旨

本県では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という）においてオリンピック 4 競技、パラリンピック 1 競技が開催される予定です。

また、ラグビーワールドカップ 2019（以下「RWC2019」という）では、埼玉県・熊谷市が開催都市の 1 つに決定しています。

両大会の成功に向けた取組を進めていくために、本県では「2020 オリンピック・パラリンピック／ラグビーワールドカップ 2019 埼玉県推進委員会」を設置し、平成 28 年 5 月に「埼玉県推進基本計画」を策定しました。

「埼玉県推進基本計画」（以下「基本計画」という）では、基本理念とビジョンを次のとおり掲げて両大会に向けた取組を推進し、大会後に引き継がれる遺産（レガシー）を残していくこととしています。

### 基本理念

オール埼玉による取組

スポーツを通じたレガシーの創出

### ビジョン

本県のスポーツは、国内有数のプロチーム、世界に誇るスポーツ施設、そして国際大会で活躍するアスリートなど、世界で認められる高いポテンシャルを有している。  
これは関東平野の中心にある恵まれた立地条件とともに、郷土埼玉への思いを胸に、世界を相手に自らの手で築き上げてきた結果であり、私たち埼玉県民の誇りである。  
この誇りを胸に抱き、堂々と両大会に臨もう！そして、本県スポーツの更なる高みを目指すとともに、様々な分野で世界に通じる新たなステージに向かい、一丸となって取り組もう！

# SAITAMA PRIDE

～スポーツ王国の底力を発揮し、埼玉を新たなステージへ～

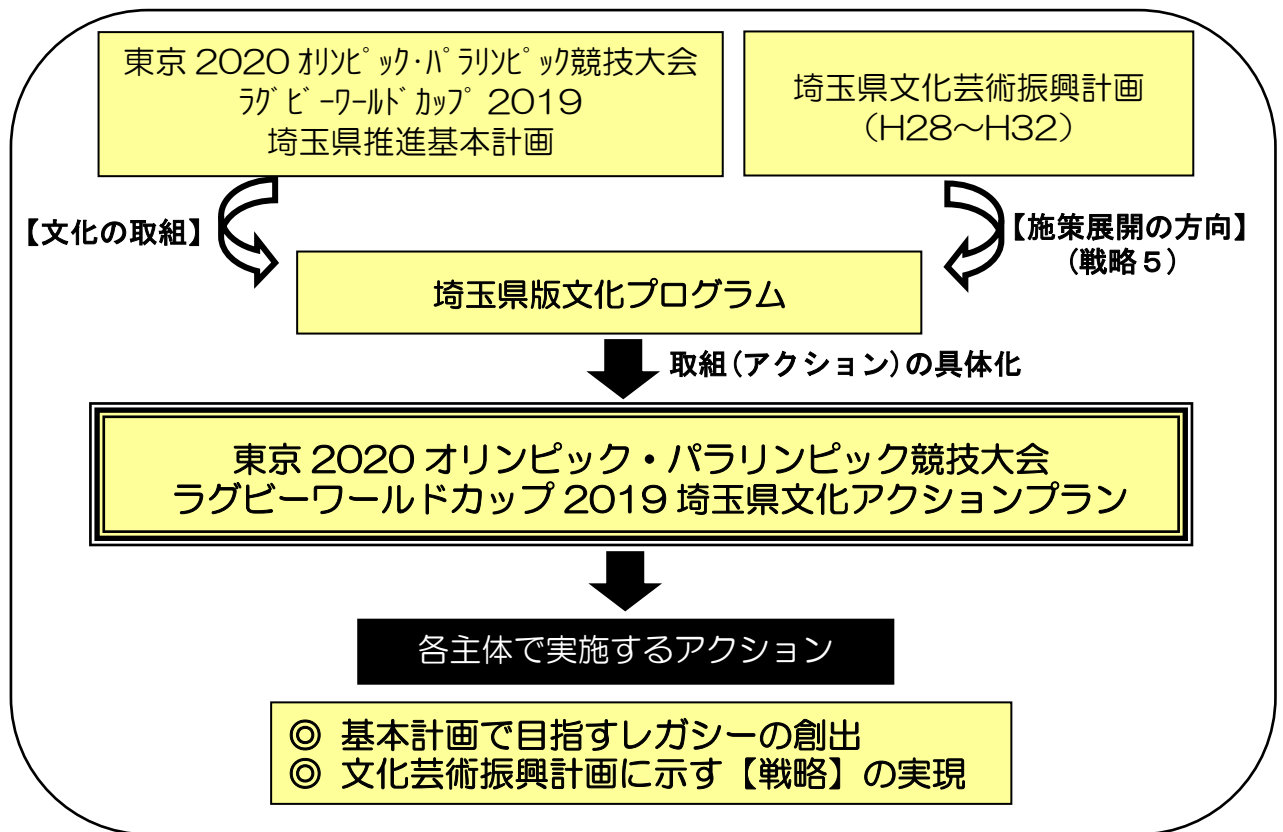
この基本計画において、文化の取組（アクション）は「埼玉県版文化プログラム」と位置付けられています。

そして、両大会を契機に本県で育まれてきた文化芸術の魅力を世界に発信する絶好の機会と捉えて、両大会の気運醸成とともに本県の文化芸術の振興を図ることを目指しています。

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 ラグビーワールドカップ 2019 埼玉県文化アクションプラン」（以下「県プラン」という）は、この「埼玉県版文化プログラム」としての取組（アクション）を具体化し、オール埼玉で推進していくものです。

併せて、埼玉県が策定した「埼玉県文化芸術振興計画」（平成 28 年～32 年）に示す戦略 5「埼玉の文化芸術の力を結集し、次世代に継承される文化プログラムの実現」を目指すものです。

【県プランの位置付け】



(参考) 本県の競技会場

**ラグビーワールドカップ2019**

①熊谷ラグビー場 (熊谷市)  
9月20日(金)~11月2日(土)  
(他会場も含めた全体日程)

**東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会**

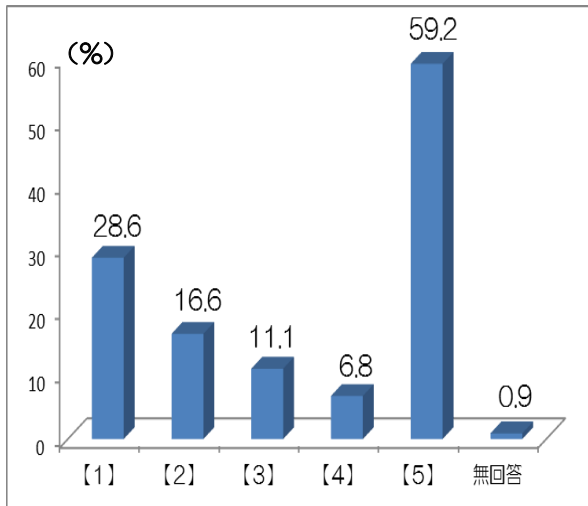
<p><b>バスケットボール (オリンピック)</b></p> <p>②さいたまスーパーアリーナ (さいたま市) 7月25日(土)~8月9日(日)</p>	<p><b>サッカー (オリンピック)</b></p> <p>③埼玉スタジアム2002 (さいたま市) 7月22日(水)~8月8日(土) (他会場も含めた全体日程)</p>
<p><b>ゴルフ (オリンピック)</b></p> <p>④霞ヶ関カンツリー倶楽部 (川越市) 7月30日(木)~8月2日(日) 男子 8月 5日(水)~8月8日(土) 女子</p>	<p><b>射撃 (オリンピック・パラリンピック)</b></p> <p>⑤陸上自衛隊朝霞訓練場 (朝霞市・和光市・新座市) 【オリンピック】7月25日(土)~8月2日(日) 【パラリンピック】8月26日(水)~9月2日(水)</p>

## 2. 本県における現状と課題

### (1) 大会に対する気運醸成

平成28年度に実施された埼玉県政世論調査では、東京2020大会の開催競技と開催会場の認知状況について、次のような結果が出ています。

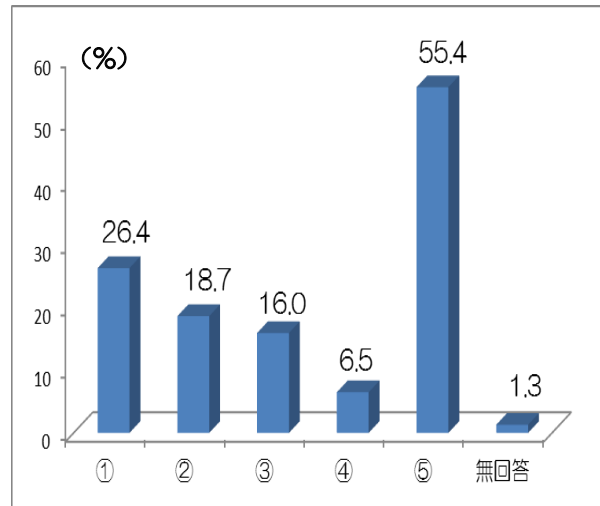
開催競技の認知度



- 【1】サッカー 【2】ゴルフ  
 【3】バスケットボール 【4】射撃  
 【5】いずれも知らない

出典:平成28年度 埼玉県政世論調査報告書  
 ※回答数:2,175(複数回答可)

開催会場の認知度

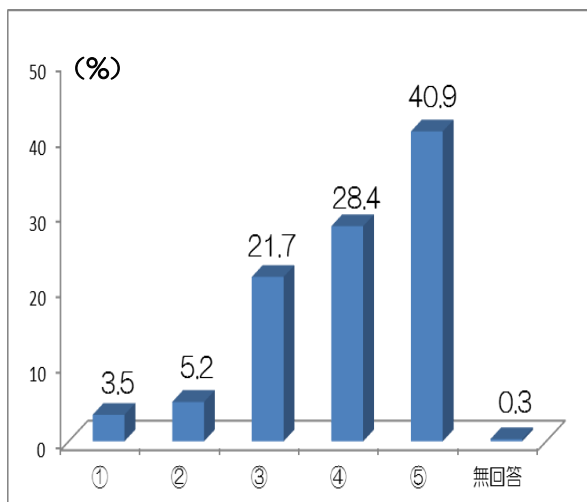


- ① 埼玉スタジアム2002 (サッカー)  
 ② さいたまスーパーアリーナ (バスケ)  
 ③ 霞ヶ関カンツリー倶楽部 (ゴルフ)  
 ④ 陸上自衛隊朝霞訓練場 (射撃)  
 ⑤ いずれも知らない

この結果を見ると、開催競技または開催会場について、知らない割合が5割を超えており、本県での開催についての認知度はあまり高くないことが見受けられます。

また、RWC2019への関心度については、次のような結果となっています。

RWC2019への関心度



- ① 大変関心があり、是非、熊谷ラグビー場で直接観戦したい。  
 ② かなり関心があり、日本代表戦やニュージーランド代表戦などが熊谷ラグビー場で行われるなら直接観戦したい。  
 ③ 関心があるため、テレビなどで観戦したい。  
 ④ たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない。  
 ⑤ 特に関心はない

出典:平成28年度 埼玉県政世論調査報告書  
 ※回答数:2,175

この結果を見ると、積極的に会場で観戦したい割合は1割未満となっている一方、どちらかというに関心がない割合が約7割と高くなっています。

東京2020大会、RWC2019を契機として本県の文化芸術の振興を図っていくためには、両大会に向けた気運醸成を図っていくための取組を積極的に進めていく必要があります。

## (2) 本県の文化芸術活動の状況

本県には、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「細川紙（小川町・東秩父村）」、「秩父祭の屋台行事と神楽（秩父市）」、「川越氷川祭の山車行事（川越市）」をはじめ、「鷲宮催馬楽神楽（久喜市）」や「小鹿野歌舞伎（小鹿野町）」、「脚折雨乞（鶴ヶ島市）」、「棕神社の龍勢（秩父市）」などの代々受け継がれてきた伝統芸能や文化財があります。

その一方で、アニメ・マンガなどのメディア芸術、本県独自の取組である、故蜷川幸雄氏の呼びかけにより平成18年に結成された「さいたまゴールド・シアター」があります。また、近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」によるダンス公演を始めとした障害者芸術イベントなどがあり、多彩で個性的な文化芸術が展開されています。

県民の文化芸術に関する活動状況についてですが、平成28年度県政世論調査によると次のような結果が出ています。

① 最近1年間で文化芸術活動を行ったことがある割合

➡ 31.8%

② 最近1年間で文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館に出かけたことがある割合

➡ 56.8%

③ 日常生活の中で文化芸術の鑑賞や参加の機会や環境について満足している割合

➡ 37.8%

このような中で本県は、人口減少や少子高齢化など社会構造の変化に加え、県民の地元に対する愛着心が薄いといった状況（※）もあり、地域のコミュニティの弱体化が指摘されており、特に地域における伝統芸能の後継者不足が課題となっています。

東京2020大会、RWC2019は国際的に大きな大会であり、世界中の注目が集まる中で、本県はその競技会場となっておりさらに注目度が高くなります。

この絶好の機会を活かして、本県の文化芸術の魅力を県民が改めて認識するとともに、世界に発信していくことが求められます。

そして、本県での文化芸術の一層の振興を図りながら、地域コミュニティの活性化や次世代を担う人財の育成につなげていくことが求められます。

※リクルート2010年ご当地調査

・ 地元に着愛を感じる 47位 ・ 地元のおすすめ度 47位

### 3. 創出すべきレガシー

基本計画に示す基本理念とビジョンを踏まえ、県プランに基づき様々な文化芸術のアクションを実施することにより、次のレガシーを創出して東京 2020 大会及び RWC2019 以降にも受け継いでいきます。

#### (1) 交流と創造による個性ある多様な埼玉の文化の魅力発信

- ① 東京 2020 大会及び RWC2019 終了後に継承される、個性ある多様な文化芸術活動。
- ② オール埼玉による新たな連携・協働関係の構築、及びそこから創造される新たな文化芸術とその発信。
- ③ 東京に隣接していながらも自然と日本の伝統や文化が多く残されている本県の特性を活かし、アーティストが埼玉を創作の場としながら活躍できる環境づくり。

#### (2) 未来を切り拓く若い世代の活躍

- ① 子供・青少年が優れた文化芸術を日常的に鑑賞、体験、発表できる機会の増大。
- ② 若い世代が事業の企画・運営に参画するなど、文化芸術活動を支える人材を育成できる環境づくり。

#### (3) 文化芸術をつなぎ役とした人と地域の活力の創出と次世代への継承

- ① 文化芸術活動を通じた、地域コミュニティの再生。
- ② 高齢者が健康で元気に過ごすための生きがいとしての文化芸術の活用。
- ③ 障害者の文化芸術活動の推進などによる、多様性を尊重する共生社会の実現。
- ④ 文化芸術活動を契機とした、観光や新たな産業の振興。

## 4. 取組の方向性

本県では、「3. 創出すべきレガシー」を踏まえ、「(1) オール埼玉での取組」及び「(2) 「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016」等を活用した取組」を2つの大きな柱として、本県の文化芸術を振興していくとともに、東京 2020 大会及び RWC2019 に向けた気運醸成を図っていきます。

### (1) オール埼玉での取組

- ・ 多様な主体による連携・協働

県と開催会場自治体を中心に文化団体、文化施設、企業、大学、市町村など多様な主体が連携・協働して、大会を契機とした既存の取組と新たな発想による取組の積極的な推進、そのための支援を行っていく体制を検討していきます。

そして、その体制を両大会のレガシーとしていきます。

- ・ 芸術家の育成と文化芸術を支える人財の充実

オール埼玉での取組を進めることにより、芸術家を育成していくとともに、文化芸術を支える人財も充実させていきます。

### (2) 「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016」等を活用した取組

大会組織委員会では、大会後のレガシーも見据えた包括的な取組を日本全国で推進するため、「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016」（以下「アクション&レガシープラン」という）を取りまとめました。

また、このアクション&レガシープランを推進するアクションの認証制度として、「東京 2020 参画プログラム」（以下「参画プログラム」という）を設けています。

一方、国においても、2020年以降を見据えたレガシーを創出するための認証制度として、「beyond2020 プログラム」を推進することとしています。

県プランにおいても、この参画プログラム及び beyond2020 プログラムを積極的に活用して、取組を進めていきます。

なお、参画プログラムについては12ページの参考1を、beyond2020 プログラムについては13ページの参考2を御参照ください。



## 5. 具体的な取組

### (1) オール埼玉ネットワーク体制での展開

オール埼玉で、様々な主体が連携・協働していく取組を推進していきます。

#### アクション例

- 埼玉 WABI SABI 大園会（仮称）（県とさいたま市の連携）
- 県・開催会場自治体とその周辺自治体等が協働したイベント等の実施

### (2) 日本文化の再認識と継承・発展

長年受け継がれてきた日本独自の生活文化、さらには県内各地域に伝わる伝統芸能や大切に保存されてきた文化財といった、「和」の精神・文化について、様々な角度から焦点を当ててその価値と魅力を再認識し、国内外に発信するとともに、後継者の育成など次世代への継承と発展を図っていきます。

#### アクション例

- 伝統芸能の発表の機会や活動の充実
  - ・ 埼玉伝統芸能フェスティバル
  - ・ 埼玉県芸術文化祭
  - ・ 県内の伝統芸能を一堂に会し、食とコラボした事業
  - ・ 学校での歌舞伎や邦楽など伝統芸能の鑑賞機会の充実
- 日本文化の体験
  - ・ 地域の公共施設（児童館や公民館）において、日本文化を体験できるイベントの実施
  - ・ 博物館などにおける伝統文化の展示や体験プログラムの実施
- 埼玉の歴史・文化の価値の再発見と魅力発信
- 文化芸術作品の素材としてユネスコ無形文化遺産の「細川紙」、「秩父祭の屋台行事と神楽・川越氷川祭の山車行事」の活用

### (3) 次世代の育成と新たな文化芸術の創造

ダンスや音楽など若者が活躍している分野に焦点を当て、事業の企画・運営など主体的な活動を支援し、次世代の担い手として育成を図っていきます。

また、現代アートや最先端技術、ポップカルチャーなどと伝統文化を融合させた新しい文化芸術、先駆的なプログラムを積極的に展開していきます。

#### アクション例

- 先駆的なプログラムの実施
  - ・「蜷川レガシー」を継承し、埼玉から世界へ発信する文化芸術活動の推進
  - ・近藤良平プロデュース障害者ダンスチーム「ハンドルズ」全国展開の推進
- 新たな文化芸術の創造と展開
  - ・SKIP シティ国際Dシネマ映画祭
  - ・埼玉まるごとアニ玉祭
  - ・現代アートと伝統文化の融合など新たな分野に対する取組の支援

#### (4) 埼玉の様々な文化の世界への発信と国際交流

東京2020大会、RWC2019という国際的な大会が本県で開催されることで、様々な国や地域から多くの方が来県することが予想されます。

これは、本県が持つ多種多様な文化資源の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、この機会を活用する取組を進めていきます。

また両大会の開催は、普段は接することのできない海外の文化芸術に触れる機会とも言えます。

この機会に海外の文化芸術と交流する取組を実施し、文化芸術の国際交流を進めていきます。

#### アクション例

- 本県の歴史・文化・自然や、本県で開催される文化芸術事業、イベント等の情報の一元化と、外国人や外国語による世界への魅力発信
- 本県の文化芸術と海外の文化芸術をコラボさせた事業の実施
- 美術館などにおける海外作品の展示や体験プログラムの実施

#### (5) あらゆる人の参加・交流と地域の活性化

オール埼玉で進めていくために、プロの芸術家のほか、子供、青少年、高齢者、障害者や外国人などあらゆる人たちが参加できる取組を展開していきます。

また、あらゆる人が参加することで、地域における人の交流の活性化を図り、地域の文化芸術活動や地域コミュニティの活性化につなげていきます。

#### アクション例

- 高齢者が文化芸術活動に参加する「元気な高齢者」の創出
- 障害のある方とない方によるダンスパフォーマンス
- 誰でも鑑賞できるバリアフリーコンサート
- 地域に住む外国人との伝統文化や芸術体験を通じた交流
- プロの芸術家による子供向けの芸術教室

#### (6) 埼玉の特徴的な文化資源の活用

##### ・ 蜷川レガシーの継承

彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督だった故蜷川幸雄氏は、既成概念を超えた創造力と文化芸術に対するあくなき挑戦により「世界のニナガワ」という名声を築き上げました。

今後は、蜷川氏が残したレガシーを継承し、埼玉から世界へ発信する文化芸術活動を引き続き行っていきます。

#### アクション例

- 「さいたまゴールド・シアター」「さいたまネクスト・シアター」による、埼玉県からの新たな文化芸術の発信
- 蜷川レガシーの海外への発信や、積極的な外国人参加の呼びかけ

##### ・ 障害者アートの振興

本県は、全国に先駆けて障害者の文化芸術支援に取り組んできました。才能豊かなアーティストや作品を発信していきます。

#### アクション例

- 埼玉アール・ブリュット展
- 近藤良平プロデュース障害者ダンスチーム「ハンドルズ」舞台公演

##### ・ アニメ・マンガの舞台や映画のロケ地などの活用

県内各地にはアニメ・マンガの舞台や映画のロケ地となった場所があり、聖地として多くの観光客が訪れており、これを観光資源として活用し、本県の魅力を発信していきます。

#### アクション例

- アニメ・マンガの舞台や映画のロケ地を中心に、周辺地域の伝統文化等も含めてのイベント実施
- 外国人観光客に向けた多言語によるホームページ等での情報発信

・ 伝統的な文化資源の活用

県内にはユネスコ無形文化遺産に登録された「細川紙」、「秩父祭の屋台行事と神楽・川越氷川祭の山車行事」や、小鹿野歌舞伎、鷲宮催馬楽神楽など、長い歴史や風土の中で育まれてきた地域固有の伝統芸能や文化財などが数多く残されています。

これら伝統的な文化資源を、本県の魅力を発信する資源として、引き続き活用していきます。

アクション例

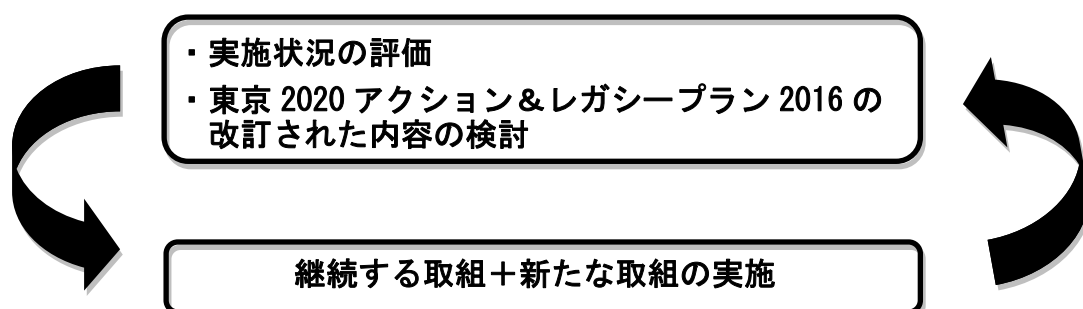
- 国内外の観光客を対象とした、ユネスコ無形文化遺産と地域固有の伝統文化の観光ツアー
- 外国人観光客に向けた伝統文化体験イベントの実施

## 6. 取組の評価と見直し

大会組織委員会のアクション&レガシープランは毎年改定される予定で、アクションの積み重ねに伴う更新が行われることになります。

県プランについても、以下のとおり毎年度見直しを行っていきます。

評価と見直しについては、2020 オリンピック・パラリンピック／ラグビーワールドカップ 2019 埼玉県推進委員会に設置された文化・教育部会において行っていくこととします。



## (参考1) 東京 2020 参画プログラム

「東京 2020 参画プログラム」とは、様々な組織や団体がアクション&レガシープランで提示されたアクションを実施する仕組みで、参画プログラムとして認証されることで、マークの使用や「オリンピック・パラリンピック」等の文言使用が可能となるものです。

### 1. プログラムの枠組み

#### (1) 東京 2020 公認プログラム

- ・ 実施主体：各省庁、開催都市、スポンサー、JOC、JPC、会場関連自治体、大会放送権者
- ・ 東京 2020 公認マークを使用することができます。
- ・ 「オリンピック・パラリンピック」等の文言を、アクションタイトルや説明文等に使用することができます。

※会場関連自治体＝埼玉県、さいたま市、川越市、朝霞市、和光市、新座市

#### (2) 東京 2020 応援プログラム

- ・ 実施主体：会場関連自治体以外の自治体、非営利団体
- ・ 東京 2020 応援マークを使用することができます。
- ・ 「オリンピック・パラリンピック」等の文言を、タイトル以外（説明文等）に使用することができます。

### 2. 申請等の流れ

#### (1) 主体登録

1回のみでの申請で、団体情報の登録を行います。

#### (2) アクション申請（実施のおよそ1か月前までに申請）

アクション単位で大会組織委員会あて電子メールにより申請を行います。

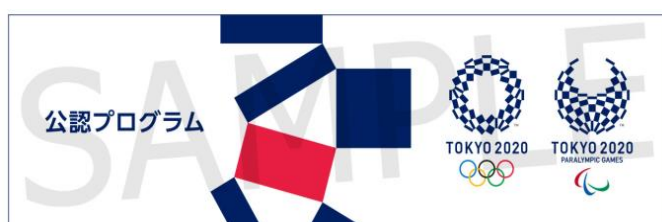
#### (3) 大会組織委員会によるアクション認証

#### (4) マーク等使用申請（実施のおよそ2週間前までに申請）

#### (5) 実績報告（実施から2か月以内に提出）

※詳細については、別添「東京 2020 参画プログラム ガイドライン」を御覧ください。

#### 【マーク】



## (参考2) beyond2020 プログラム

「beyond2020 プログラム」は、「日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出する」ことを目的として、文化に関わる幅広い活動を内閣官房が認証する制度です。

認証されることで、「beyond2020 ロゴマーク」を使用することができます。

営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動が対象となります。

また、公的機関のほか、学校法人や任意団体、民間事業者など様々な主体が参画することができます。

### 1. プログラムの認証要件

- 日本文化の魅力を発信する事業・活動であること。
  - ※ 日本文化とは、伝統的な芸術からクールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、和食などの食文化、祭りや伝統的工芸品など、多様なものを含んでいます。
- 多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動であること。
  - ・ 障害者にとってのバリアを取り除く取組
  - ・ 外国人にとっての言語の壁を取り除く取組

### 2. 申請等の流れ

申請は電子メール受付のみ。beyond2020 プログラム事務局あてに送信します。事業終了後、1か月以内に実績報告を提出します。

※詳細については、別添「beyond2020 プログラム認証要領」を御覧ください。

【ロゴマーク】

